

大阪府保育士会だより

平成22年5月1日

第84号

大阪府社会福祉協議会

保育部会・保育士会

大阪府中央区中寺1-1-54

TEL 06-6762-9001

ほほえみ

新年度を迎えてー

組織強化を図り、子どもたちの命と最善の利益を守るため精進したい

桜のトンネルをくぐり、かわい子どもたちが入園してきました。保護者にとっかかりと抱かれています。手を繋いで嬉しそうに子どもを幸せな光景があふれています。どのお子様も心して大切に育てたいものです。

子どもたちのSOSを受けとめる最前線にあります。子どもたちのかげりや気配を見逃さず、尊い命と子どもの最善の利益を守るため、倫理綱領にあるように志を高く持ち、保育士の専門性を発揮しましょう。

翻って、新聞紙上では、連日虐待報道がなされています。大阪は、

全ての議案を、第51回保育士会総会で、

新型インフルエンザにもまして、児童虐待の非常警戒の感があります。児童福祉施設などで保育士資格が取り消される事案が発生してしまいました。家庭で、しつけと称して、子育ての未熟さと生活苦からの虐待。泣いても許してもらえず、誰からも助けってもらえず、命を絶たれていく子どもたちが不憫でなりません。「数少ない子どもをいかに守り育てるか」、虐待予防、発見に家庭、地域の人々と全力で取り組まなければなりません。



大西潤子保育士会長

総意でご承認いただきました。厚く御礼申し上げます。大阪府下6ブロックの代表6名が大阪府

保育士会三役を務めることになりました。副会長に伊藤裕子さん(国分保育園)書記に橘田由紀子さん(みどり幼児園)の各1名を増員し、組織強化を図りました。

新たな半世紀を踏み出すにあたり、その節目を意識して一同精進してまいります。全国保育士会は会員20万人達成を目指しています。併せて更なるご支援をお願い申し上げます。

特に、私たち保育士は子

併せて更なるご支援をお願い申し上げます。

一緒に楽しむ『ふれあい会』



当園では、地域の老人会の方を園に招いています。2歳児から5歳児までの子どもたちが、歌や遊戯、楽器あそびなどを披露して見ていただきます。その後、おじいちゃん、おばあちゃんと一緒に歌ったり、懐かしい歌や童謡を歌ったり、手遊びを楽しんだり。園児とふれあってもらう場になっています。その時にささやかでも一層力が入り、楽しみな行事になっています。地域の親子に参加してもらう行事も盛りだくさん。七夕会、プール開放、もちつき会、豆まき会には声をかけ、毎年10組くらいの親子にたいへん喜んでもらっています。

河内長野市 ちづる保育園



『歌』や『劇』『園行事』を共に！



劇などが始まると、おじいちゃん、おばあちゃんたちは大喜び。その姿を見て子どもたちは「また来年も」と取り組みに賛同しています。これからの積極的に行事への参加を呼びかけ、地域との関わりを深めていきたいと思っています。

箕面市 常照寺隣保館保育園



地域とともに

ふれあい大切に





22年度保育士会総会が4月21日、288人が参加し、社会福祉指導センターで開催されました。はじめに総会議事では21年度事業報告並びに収支決算、22年度事業計画案と収支予算案、役員補充に伴う会則改定などが承認されました。

第二部では、東京おもちゃ美術館館長の多田千尋氏から「心と人をつなぐおもちゃ」をテーマに記念講演を行いました。多田氏は、まずオレゴンのトレインホイッスルと呼ばれる木のおもちゃを使い、蒸気機関車の音を再現。その音は、子どもだけではなく、老人をも惹きつけるといいます。おもちゃというモノは、子どもが楽しむだけのモノではなく、コミュニケーションを豊かにしてくれる道具

具であると述べられました。テレビ、コンピュータゲーム、DVD、マンガは子どもを取り巻く四大メディアと呼ばれていますが、それらと過ごしている時間はコミュニケーションをシャット



トアウトしている時間であり、それは年間2000時間にもなるそうです。そのような中で、人と関わることの大切さ、汗をかくことの大切さ、自然の大切さを教えることができるのは

保育士しかいないと指摘。そのような保育を達成するためにも、保育士は遊びと芸術の力を借りながら取り組んでいただきたい。歌を歌うのは「音楽」であり、絵を描くのは「美術」であり、絵本を読み聞かせるのは「文学」という芸術である」と強調されました。



最後に多田氏は「地産地消」といわれるように、地元で、地元の子どもの育てたいと熱く訴えかけ講演を締めくくられました。

保育士しかいないと指摘。そのような保育を達成するためにも、保育士は遊びと芸術の力を借りながら取り組んでいただきたい。歌を歌うのは「音楽」であり、絵を描くのは「美術」であり、絵本を読み聞かせるのは「文学」という芸術である」と強調されました。

求められる意識改革・資質の向上 子どもたちに心の安定を♡

—第36回全国保育士研修会—

第36回全国保育士研修会が2月15、16の両日、パシフィコ横浜アネックスホールで開催されました。初日の全体会では、全国社会福祉協議会児童福祉部部長の笹尾勝氏から「子どもの育つ環境と保育の役割」をテーマに、また、静岡英知学院大学の小沼肇教授が「子どもが求める保育士とは」についてそれぞれ講義されました。

小沼教授はまず、子どもを取り巻く環境が悪化している」と指摘。保育士のさらなる資質の向上を求めたい。え、子どもたちにとって今、必要なものは技術よりも心の安定であると述べられました。2日目はコース別研修が行われ、「保育所における人材育成について」(Bコース)に参加。その中で講師の東洋大学の清水玲子教授は、新保育指針における人材育成の位置づけや自己評価の方法、職場内研修の重要性について解説され、職員員の資質向上とは全員が意欲を持って成長していくこ



岸和田市 山直南保育園

平成22年度 大阪府保育士会事業計画
4月21日 平成22年度総会
「心と人をつなぐおもちゃ」
講師 多田千尋氏
6月30日 保育士研修会
①「大切にしよう 日本の童謡」
講師 もり・けん氏
②「志を高く生きる」
講師 上甲 晃氏
7月16・17日 近畿ブロック保育研究集

会(グランキューブ大阪)
7月27日〜29日 保育士の専門性を高める連続研修会
(園長・リーダー・主任 保育士研修会)
9月6日 保育士研修会
「生活環境が与える子どもへの影響」生活リズムの乱れと学力低下の歯止めを考える」
講師 前橋 明氏
10月20日〜22日 全国保育研究大会(和歌山県和歌山市)

11月 「子どもの発達と環境(3歳未満児)」
講師 未定
11月19・20日 全国保育士研究大会(三重県津市)
2月 全国保育士研修会



学びシリーズ⑮

大阪府立大学

里見恵子氏



第3回は障がいの受容のできていない保護者についての支援について考えるものである。障がいの受容ができていない保護者は、問題性に気づいていない保護者と、子どもの問題に気づいているが保育所や保育士から指摘されることを嫌がる保護者とがいる。

前者では、見えない障がいと言われる「発達障がい」、つまりADHD(注意欠陥・多動障がい)や高機能広汎性発達障がい、LD(学習障がい)であることが多い。幼児期にLDは発見しにくい、ADHDや高機能広汎性発達障

がいは、集団生活で行動や社会性の問題性が顕在化するため保育者の方が問題性に気づきやすい。保護者から育てにくさなどの訴えがあつたときが、受容のチャンスになるので、保護者の気になる事柄なのかをていねいに聞き、保育所でのよ

後者の指摘を拒否する保護者については、急いで障がい受容を迫っても関係が悪化する場合が多い。子どもの現状を認められずに目を背け、そのことで苦しんでいる保護者も第二の当事者であり支援対象である

保護者支援

障がいの受容ができていない

保護者支援

うすも伝え、同じ視点から子どもを見ていることや、具体的な援助をどのように行っているかを伝えることから始める。

「待つ」ことも援助である。また、保護者が認めずとも、子どもへの保育的な支援はできるので、保育でできる支援を考えていく。



保護者から訴えがあつたときに「問題がない」といつてしまうと、その後の話し合いが難しくなるので、安易になくさめをせず、「これからよく観察してみよう



子育て支援シリーズ⑳

未就園児の親子招き

「あそびの広場」

中学校区の行事に「育児相談」ブース



平成11年10月から月1回土曜日、午前10～11時半、未就園児の親子に参加してもらおう「あそびの広場」を行っています。

5～9月の前期と、10～3月の後期に分けて実施しますが、最初の月と最後の月に身体計測を行い、この間の成長ぶりを保護者とともに喜び合います。

「あそびの広場」では普段、家で

されているように、夏には水遊び、秋にはミニ運動会、クリスマスには地元の吹奏楽団を招きクリスマスコンサートを開きます。楽器の迫力が味わえる、とても好評です。

最後のティータイムは、おやつを食べながらおしゃべりをする時間。保護者の方同士が情報交換したり、子どもの相談など楽しいひとときとなっています。

絵本の読み聞かせの後、保育園の絵本の貸し出しも行っています。2、3冊借りて帰られる方も多。そのほか、月2回、園庭を開

きないことをして欲しいという声が多い。このため毎回リズムを取り入れ身体を動かしたあと、季節に合った製作を行ったり、小麦粉粘土あそびをします。手作りおもちゃも好評で、みなさん楽しみにしています。

平成18年11月からは、地域の中学校区の「わいわいまつり」で「育児相談」のブースを出させていたたいっているのも支援活動の一つ。これも地域の方の出会いの場所ですが、これからの地域のみなが一緒に子育てが楽しめる場所を提供したいと思っています。

そのためには地域に積極的に出向き、みなさんに喜んでもらえるボランティア活動にも参加していきたいと思っています。

泉佐野市 杉の子保育園



保育のあんな工夫こんな工夫

月2回、縦割りクラスで活動
異年齢児の関わりを大切に



私たちの保育園では異年齢児の関わりを大切にしています。写真は3月のお別れ会の風景です。

5歳児の卒園に際し、最後の機会として2歳から5歳の縦割りクラスと一緒に給食を食べているところです。子どもたちは普段と違う環境での給食にたいへん喜んでいました。5歳児の子どもたちは年下の友だちの給食を配膳したり、会話を楽しんだり、表情も活き活きとしているのがわかります。

縦割りクラスでの活動は、お別れ会だけではなく、年間を通して縦割りクラスで過ごす時間が月2回あります。4月にペアを決め、1年間、そのペアの友



たのしい保育活動

当園では「楽しく食べる」を目標に、食育活動に力を入れて取り組んでいます。その一つとして、地域の方にもお手伝いいただきながら、園庭で子どもたちと一緒に野菜を育てています。

子どもたちは、みんなで水やりをするうちに、野菜に興味や関心をもち、その成長を楽しみにするようになります。登園時に、「芽が出ているよ」「少し大きくなったね」と親子で観察するほほえまし



が眠れるようトントンするのは、子どもたちは異年齢児と関わるのがとても好き。年長児はちよつとお兄ちゃんお姉ちゃんになった気分です。

他のクラスの子どもたちも年長児を憧れの目で見ています。異年齢児の関わりを通して学ぶこともたくさんあると思います。そんな時間をこれからも大切にしていきたいと思っています。

四條畷市
田原台ひまわり保育園

良い保育を共有するためにも、ぜひ、ほほえみに原稿をお寄せください。お待ちしています。

若葉冷えの頃、油断しないよう皆様とともに頑張ります。

「食」の大切さを感じ、自分たちが育てた野菜をおいしく楽しく食べる、つまり苦手を克服することにつながります。自分も早く大きくなりたいという気持ちも芽生えることでしょう。

クッキングは子どもたちが集まって行うので、異年齢交流へと広がります。また、ランチョンマットでの食事や野菜に関するペープサート、絵本の読み聞かせ、

体操などを取り入れ「食」に興味をもてるよう心がけています。

当園で行っている食育活動や家庭でできるお手伝い、子どもの好きなメニューなどに食に関する情報を保護者に伝え、食への関心を高める取り組みも行っています。

八尾市 ふじ第二保育園



編集後記

彩りあざやかな花々と競うように、若やいだ新芽に力強さを感じる季節となりました。各園では新園児も少しずつなじみ、元気な声が弾んでいることでしょう。

昨年は、保育士会50周年記念行事を皆様とともに終えることができました。この喜びをさらに今年度につなげて伝統を積み重ね、子どもたちの笑顔のために常任委員一同、実のある研修企画を進めていきたいと思っています。